

平成30年度 宮城県地域医療構想調整会議第1回意見交換会(大崎・栗原)	資料 4
平成30年8月8日	

地域の医療提供体制に関するアンケート結果（抜粋）

1－1「地域では、現時点において回復期機能(※)が不足していると感じるか」

の問いに対する回答集計

	県全体		大崎・栗原区域	
はい	40	51.3%	10	58.8%
いいえ	26	33.3%	4	23.5%
よく分からない	12	15.4%	3	17.6%
計	78		17	
照会病院数	112		22	
回答率	70%		77%	

※急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能

地域の医療提供体制に関するアンケート結果【大崎・栗原区域】

- 1 所在する地域（概ね二次医療圏：以下の設問でも同様）の、**現時点において回復期機能**（急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能）が不足していると感じる根拠となる状況等。（凡例 ○：回復機能が不足している、×：不足していない）
 - リハビリを希望する場合、他地域へ紹介する必要がある。
 - 回復期の状態にある患者に対するリハビリテーションが受けられないところもあるので、そうした地域における体制整備等は必要。
 - 地域的にその役割を担うべき施設が、人員体制などの面で十分に回復期機能を提供できる体制にないように感じる。
 - リハビリテーションを提供する医療施設が少ない。
 - 急性期医療後の在宅復帰までの後方支援機能が弱く、転退院に苦慮している。
 - 栗原市に回復期リハビリ病棟が無い。介護リハの施設が足りない。包括ケア病棟ではリハビリを多数出来ない。
 - 高齢者が多い地域なので、入院する方も高齢者が多い。回復期機能を医療療養型病棟が担っているが、ベット満床ですぐの受け入れが難しく不足を感じる。
 - 回復期・慢性期の患者が増加している。在宅患者への訪問リハビリテーションが増加している。
 - 回復期リハにしても地域包括ケアにしても、制約があって利用しづらい。
 - ×急性期医療後の在宅復帰・施設入所までの受け皿を担っている。
 - ×地域包括ケア病床で在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを実施している。
 - ×どちらかというと慢性期状態の患者を受け入れているが、常に満床状態になっていない。
- 2 地域において、主にどのような医療（役割）を担っていると思うか。また、今後はどのような医療（役割）を担っていこうと思うか。（別紙）
- 3 地域の医療提供体制の**現状**についてどのように認識しているか（在宅医療や介護施設等における退院患者受入機能等も含め、不足していると思う医療や課題を中心に）（【 】内は類似意見の数）
 - ・医療従事者が不足（開業医の廃業、在宅医療を担う医師の不足等）【6】
 - ・介護施設が不足（老健施設、中心静脈栄養や経鼻栄養の方が入れる施設）【2】
 - ・夜間の救急受入体制が弱い【2】
 - ・長期にわたり療養が必要な患者の受け入れ先が不足【1】
 - ・介護力の少ない世帯が多く、退院後の生活に向けて、きめ細かな支援が必要【1】
 - ・ケアマネジャーや社会福祉士など医療・介護連携が不足【1】
 - ・小児科専門医が在籍する医療機関が少ない【1】
 - ・急性期、重症症例は高度医療・急性期医療を担っている大崎市民病院に昼夜問わず集中しているが、他の医療機関でも診られる疾患等も含まれている。大崎市民病院の現状を緩和出来る医療機能が必要【1】
 - ・退院調整に当たり、受入先となる医療機関や介護施設等との調整に時間がかかる【1】
 - ・高齢者を一時的に受入られる体制の強化が必要【1】
 - ・医療提供体制に地域差がある【1】
- 4 地域において**今後不足すると見込まれる医療**（在宅医療や介護施設等における退院患者受入機能等も含む）は何だと思うか（【 】内は類似意見の数）
 - ・医療従事者等の不足により、救急医療体制（特に夜間等）不足、病院外来の負担が増す【7】
 - ・医療、福祉、介護サービスの安定した提供を目指すための訪問診療【4】
 - ・在宅医療を行う医療施設及び介護施設、認知症を診る専門医療機関【3】
 - ・長期にわたり療養が必要な患者（医療型療養病棟等）の受け入れ先【2】
 - ・家族に事情があり自宅でみれない医療依存度の高い患者の受け入れ先【2】
 - ・感染症のある患者の介護施設入所の受け入れ先【1】
 - ・急性期を経過して状態が安定した患者の受入先（特に中心静脈栄養、経鼻栄養）【1】
- 5 その他地域医療に関する自由意見
 - ・住民に情報提供を行うなどして地域医療構想に沿った医療機能の分化と連携を推進してほしい
 - ・大崎医療圏は訪問診療等の移動に時間を要するが、診療報酬上の点数は加味されていない
 - ・看護要員（看護師、看護補助者）は慢性的に不足している。地域包括ケア病棟はハードルが高く、施設基準を満たすことが難しい ・老健施設を増床してほしい
 - ・地域医療に携わる医師の高齢化が進んでおり、次の世代を担う医師が圧倒的に不足
 - ・医師不足のため、東北大学医学部やその他の病院とのつながりと、診療応援の依頼ができる体制がこれからも必要
 - ・過疎地の看護師不足が深刻になっていくような気がする。医療スタッフの確保が課題